

蒲生干潟周辺の塩分濃度④

■蒲生干潟周辺の塩分濃度の測定を行った。

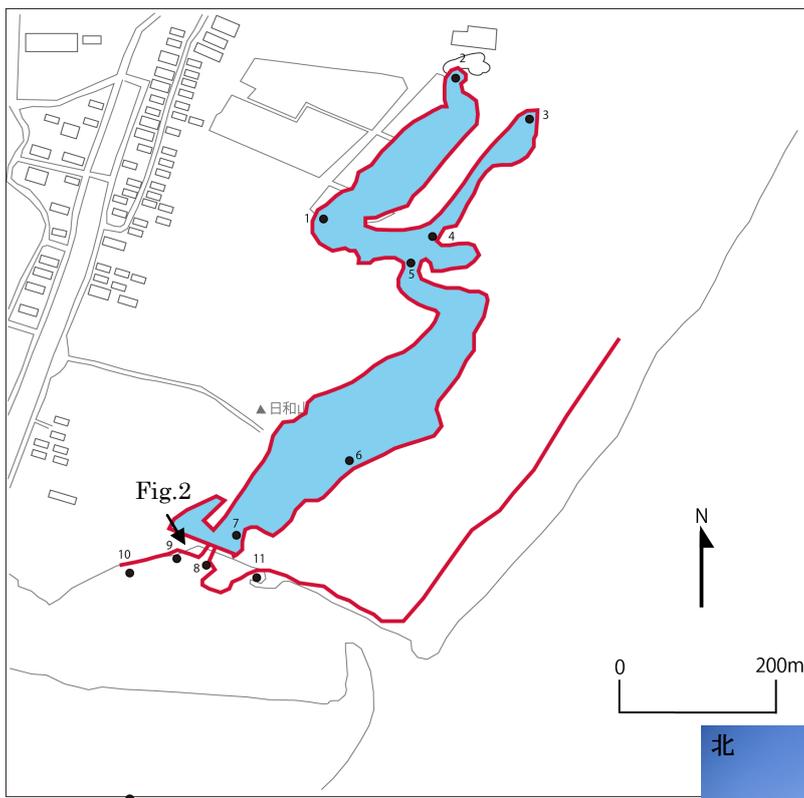


Fig.1 採集箇所（赤線は、2016.4.6にトレースした線）

地点	塩分濃度(%)		
	1回目	2回目	平均
St.1	2.0	2.1	2.1
St.2	0.9	1.0	1.0
St.3	1.8	1.7	1.8
St.4	1.8	1.7	1.8
St.5	1.8	2.0	1.9
St.6	1.8	1.8	1.8
St.7	1.9	1.9	1.9
St.8	1.9	2.0	2.0
St.9	1.8	2.1	2.0
St.10	1.8	2.1	2.0
St.11	3.1	3.4	3.3

Table.1 各地点の塩分濃度（採集は表層のみ）

蒲生調査レポートNo110の調査と同日同時間に、蒲生干潟周辺の塩分濃度を測定した。採水地点は、Fig.1に示したとおり、11カ所で行った。Table.1は塩分濃度の測定結果をあらわしており、平均のセルがオレンジ色のものは3月と比較して高かったもの、青色は低かったもの、無色は変わらなかったもの、灰色は測定地点が3月と異なるものを表している。また図中の矢印は写真の撮影場所と撮影方向をあらわしている。

測定された塩分濃度は3月の調査と比較すると潟湖内の北側のSt.1～St.3で0.3～0.9%高かったのに対して南側のSt.5～St.7では0.5～1.0%低くなっていた。導流堤付近のSt.8～St.10では3月の測定地点と場所が多少ことなるが平均すると1.3%低い測定値となっていた。

これは導流堤付近の堆積が進んだことにより(Fig.2)、河口側から遡上した海水より、川側から流れてきた水が多く潟湖に流れ込んだため、潟湖入口付近では塩分濃度が低下していた可能性があると考えられる。

